

長期維持管理技術委員会 平成 30 年度第 1 回 議事要旨 (案)

日時：平成 30 年 11 月 5 日 (月) 10:00～11:10

場所：阪神高速道路 (株) 本社 11F 会議室

出席：委員長：宮川 豊章 (京都大学 特任教授)

委員：小林 潔司 (京都大学経営管理大学院 教授)

森川 英典 (神戸大学大学院工学研究科 教授)

杉浦 邦征 (京都大学大学院工学研究科 教授)

議事：

1. 前回議事要旨の確認
2. 大規模更新事業の状況報告 (湊川付近)
3. 維持管理マネジメント高度化検討状況
4. その他

主な意見等

○大規模更新事業の状況報告 (湊川付近)

- ・ 剛性が低いことが損傷発生を誘発していると考えられるが、一般的な橋梁と比較して実橋計測結果に差が生じているのかどうかを確認しておいた方が良い。
- ・ 新たな支点部となる中間橋脚上は、発生応力の状態が変化するため注意が必要である。
- ・ 東橋と西橋、上り線と下り線で損傷発生の状況が違っているように見受けられるが、その要因については、分析の継続が必要と考えられる。
- ・ 補強することにより、悪くなるという他の橋梁の事例等もあるため、そのようなことが無いように良く検討していただきたい。
- ・ 中間橋脚設置案について了承。指摘については検討等を継続し、事業を進められたい。

○維持管理マネジメント高度化検討状況

- ・ H-BMS を活用しながら、改良していくのが良いと思われる。
- ・ 要素的なシステムは多数あるので、それらの資産をどう活用していくか考える必要がある。旧 H-BMS と新 H-BMS を上手く結び合わせていく必要がある。
- ・ 阪神高速の技術の体系をどう考えていくかというロジックモデルの活用が重要である。
- ・ 阪神高速の BMS は先行しており、様々な知見も積みあがってきているかと思うので、データ蓄積によるブラッシュアップも含め、検討いただきたい。
- ・ 検討ロードマップについては、これまでの反省や振り返りを次期、法令点検の 5 年に活用すべく、ここ 1～2 年で検討していく必要がある。

以 上